

# 景況レポート

(7月分・情報連絡員80名)

## DI値が9年ぶりの水準に回復

【概況】7月分の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが15.2%（前月調査16.5%）、「悪化」が34.2%（同36.7%）で、業界全体のDI値は-19.0と、前月調査と比較して1.2ポイント上回り、平成16年7月以来のマイナス10台となった。

内訳として、製造業全体のDI値は-12.9で前月調査と比較して3.5ポイント下回り、非製造業全体のDI値は、-22.9で前月調査と比較して4.8ポイント上回った。

消費税増税前の駆け込み需要と思われる個人住宅や民間の建築工事に加え、公共工事が本発注となったこと等により、鉄鋼、木材・木製品、建設業等で受注が増加している。しかし、円安、原油高によるコストアップが収益を圧迫しており、また電気料金の値上げ等も先行きの不安材料となっていることから、人員の増加や設備投資に慎重になっている姿勢が見受けられる。

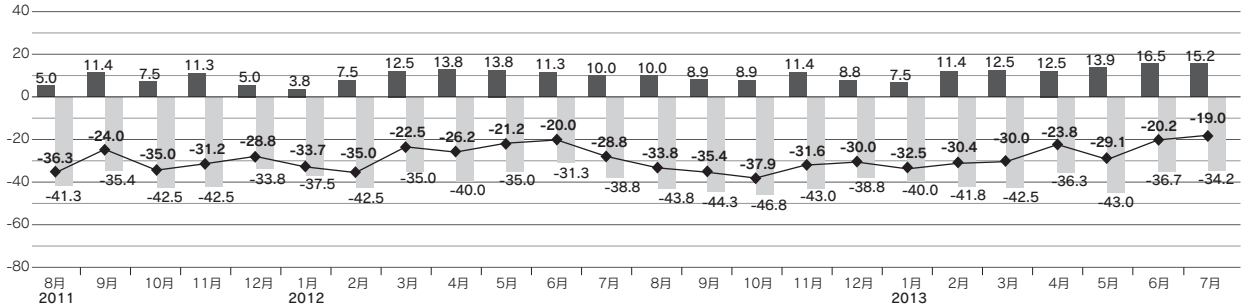
(回答数：79名 回答率：98.8%)

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業	☁	☁	☁	☔	☔	☁
非製造業	☔	☔	☁	☔	☔	☁

【凡例】  
 ☀ 快晴 30以上  
 ☁ 晴れ 10以上 30未満  
 ☁ 曇り △10以上 △30未満  
 ☔ 雨 △30以上 △10未満  
 ☔ 雷雨 △30以下  
 【天気図の見方】  
 前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index（ティフュージョン・インデックス）の略で、増加（好転）したとする企業割合から、減少（悪化）したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合〔前年同月比〕



### 業界の声

パン製造	小麦粉等の原材料が高騰しているが、価格に転嫁できているのは一部商品のみとなっている。また、天候等の影響により売上も前年を下回っている。
繊維製品	・円安及び海外生産のコストアップにより国内生産が増加しているものの、工賃の上昇幅は少なく、生産ロット数が減少傾向にあるため、収益は改善されていない。 ・紳士服の売上は前年同月比で横這いの状況となっているが、9月からの電気料金値上げの影響が懸念される。
木材・木製品	・消費税増税、長期金利の上昇、木材利用ポイント制度等の影響により、住宅着工戸数が増加傾向にあり、柱材の動きが活発である。 ・輸入合板の荷動きは一服状態が続いているが、国産針葉樹合板は、一部在庫調整の動きが見られるものの、出荷は好調を維持しており、価格がじり高傾向にある。
鉄鋼	仕事量が急激に増加してきて、各社10月頃までは受注で埋まっており、一部仕事を断らなければならない状況となっている。
自動車販売	7月の新車販売台数は、登録自動車が2,665台（前年同月比96.9%）、軽自動車が2,541台（同94.9%）で、合計5,206台（同95.9%）であった。
石油販売	ガソリン1ℓあたり157円30銭で前月比7円80銭の上昇、軽油1ℓあたり138円で前月比5円40銭の上昇となった。卸価格、小売価格ともに4週連続の値上げとなるが、仕入れ価格の上昇分に対し、転嫁が不足していることから、収益が悪化している。
商店街	当商店街では、集客力不足もあるが、円安の影響による原油価格の高止まり、小麦、包装資材他の値上げ等により、小売業は大変厳しい状況にある。消費者側は、所得が上がらない中で、買い控えの傾向が続いている。（秋田市）
一般建築	ようやく本発注が開始受注件数も多くなってきたが、最低制限価格での入札や資材等の値上がりにより、本当の意味での景気回復とはなっていない。また、先行きも不透明なことから、設備投資等の判断が難しい。
型枠工事	県内全域において、労務単価が上昇傾向にある。稼働率も高く、工程の調整が行われている現場もある。かつてよりも、元請と下請けの情報交換が密になっているように感じられ、施工体制も充実した内容となってきている。